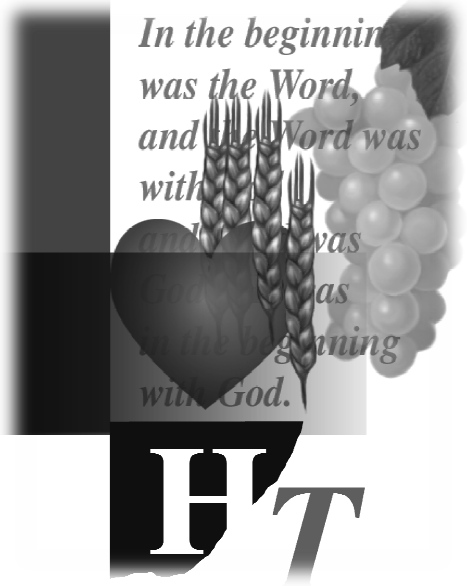
第3回　再臨待望聖会

日本の霊的覚醒　ユダヤ人の救い　メシアの再臨



講師：中川健一（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ代表）

エレズ・ソレフ（イスラエル聖書大学学長）

黒川知文（愛知教育大学教授）

ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

無断複製・転載を禁じます

目　次

中川健一「基本に立ち返る」 **1**

イントロダクション 1

1. Accidents（大震災） 1

2. Basics（基本） 2

3. Christ（キリスト） 2

4. Dispensation（時代区分） 3

5. End-Time（終末時代） 4

結論 5

黒川知文「内村鑑三と再臨運動」 **7**

イントロ 7

Ⅰ．大正期再臨運動（1917～1919 年）はどのようにして起きたのか 7

Ⅱ．大正期再臨運動はどのように展開したのか 9

Ⅲ．大正期再臨運動と現在の再臨運動との比較 17

結論 18

エレズ・ソレフ「イスラエルのメシアニック・ジュー運動」 **19**

1. 新約時代 19

2. ユダヤ教とキリスト教の分離 19

3. ユダヤ教の側の理由 – 背景 19

4. ユダヤ教の側の理由 – バル・コクバの乱 20

5. キリスト教の側の理由 – 第一ニケア公会議 21

6. ニケア公会議が教会史に及ぼした影響 22

7. 変化の始まり – 宗教改革以降 22

8. ヨーロッパのユダヤ人伝道 22

9. 20 世紀のユダヤ人伝道 23

10. ホロコーストの影響 23

11. イスラエルのユダヤ人信者たち 23

12. 全国的なメシアニック団体の発展（1980～90 年代） 24

13. イスラエルにおけるユダヤ人信者たち – 2000 年以降 24

14. イスラエルにおけるユダヤ人信者たち – 個人的な証し 25
15. 今日のイスラエルにおけるメシアの共同体 – アラブ人信者たち 25
16. イスラエルのメシアニック・ジュダイズムが抱える現在の課題 26
17. イスラエル聖書大学（ICB） 27
18. イスラエル聖書大学の使命 27
19. イスラエル聖書大学の使命 – 近況 27
20. 将来の展望 – 祈りの課題 28

賛　美 29

「基本に立ち返る」

中川健一

イントロダクション

（1）ハーベスト・タイムは、2 年前から「再臨待望聖会」を開催してきた。
①2010 年 4 月、沖縄 470 名、大阪 570 名、東京 670 名、合計 1,700 名以上。
②2011 年 3 月、沖縄 350 名、大阪 450 名、東京 550 名、合計 1,350 名。

（2）今年は、3 年目に当たる。沖縄、名古屋、札幌でプレ大会。大阪、東京で本大会。

（3）ゲスト
①イスラエル聖書大学のエレズ・ソレフ氏
②愛知教育大学の黒川知文氏。内村鑑三の再臨運動。

（4）メッセージのアウトライン
①Accidents（大震災）
②Basics（基本）
③Christ（キリスト）
④Dispensation（時代区分）
⑤End-Time（終末時代）

1. Accidents（大震災）

（1）東日本大震災以降、日本は変わった。「震災前」と「震災後」。
①神がいるなら、という疑問。
②クリスチャンも例外ではない。信仰が揺さぶられている。
③日本は第 2 の敗戦を経験した。
＊第 1 の敗戦では、吉田茂首相のもとで、良き敗者としての再出発
＊第 2 の敗戦の先は見えていない。
＊戦後の経済成長政策、エネルギー政策、の敗北

（2）西洋の神学（物質主義的、成功志向のキリスト教）の盲点

①「苦難」の意味の喪失
②「苦難」は神の計画の一部である。
③私たちの品性を練り、完成へと導く。
「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています」(ロマ 8:28)
④試練の中での霊的覚醒（目覚め）
＊使徒行伝の伝道の拡大
＊共産圏での霊的覚醒（目覚め）

(3) 今こそ、伝道のチャンス

2. Basics（基本）

(1) 聖書観の再確認
①聖書は、神の霊感によって書かれた書である。
「聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です」(2 テモ 3：16)
②「霊感」という用語の意味。

(2) 解釈学の再確認
①字義通りに読む
＊どの程度比ゆ的に解釈するかで、その人の終末論が決まってくる。
②著者の意図を探り当てることがゴールである。
＊必然的に、ヘブル的読み方となる。
③意味はひとつしかない。

3. Christ（キリスト）

(1) 聖書は何を掲示しているのか。
①神とはどういうお方か。
②いかにすれば、その神に近づけるのか。

(2) この両方を示すのがイエス・キリストである。
①イエス・キリストは、神であり、人である。
②神でなければ、救えない。
③人でなければ、死ねない。
「『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです」(1テモ 1:15)

(3) 福音とはイエス・キリストに関する良き知らせである。
①キリストは私たちの罪のために死なれた。
②キリストは死んで墓に葬られた。
③キリストは三日目に甦られた。

(4) 福音を信じ、イエス・キリストに信頼を置いた者の幸い
①キーワードは、「キリストにあって」である。
「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました」(エペ 1：3)
②位置的真理
＊罪の赦し
＊神の子としての身分
＊復活の希望
＊神の愛から切り離されることはない。

4. Dispensation（時代区分）

(1) キリスト教とは、世界観であり、歴史観である。
①救いの歴史という文脈を理解する必要がある。
②ディスペンセーショナリズムは、聖書の中に 7 つの区分を見る。
③どんな人でも、最低 2 つの時代区分は認めている。

(2) 今のディスペンセーションは、「恵みの時代」である。
①「教会時代」とも言う。
②これからどこに向かおうとしているのか。

(3)「御国の時代」の到来
①旧約聖書が預言する「メシア的王国」である。
②クリスチャンは、これを「千年王国」と呼ぶ。

(4) さらにその先に、新天新地がある。
①今私たちがいる時点から、千年王国、新天新地までの道のりはどうなっているのか。
②未来志向のクリスチャンこそ、この世に勝つ者である。

5. End-Time（終末時代）

(1) ロマ 11：25〜29
「兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。『救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。』彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、父祖たちのゆえに、愛されている者なのです。神の賜物と召命とは変わることがありません」
①使 2 章以降、異邦人伝道の時代に入った。
②「異邦人の完成のなる時」とは、救われる異邦人の数が満ちた時である。
③その時、イスラエルはみな救われる。
④神がイスラエルと交わした契約は、変わることがない。

(2) マタ 23：39
「あなたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に』とあなたがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありません」
①イスラエルの救いが、メシア再臨の条件である。
②イスラエルの救いは、大患難時代の終わりに来る。

(3) ロマ 11：11
「では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです」
①異邦人クリスチャンの使命

結論

（1）日本の霊的覚醒（目覚め）

（2）ユダヤ人の救い

（3）メシアの再臨

MEMO

「内村鑑三と再臨運動」

黒川知文

イントロ

1. 今日において再臨運動が広がりを見せている。
   今から９４年前の日本においても、再臨運動が今よりも大規模に展開した。

2. 大正時代の再臨運動はどのようにして起き、展開し、終息したのであろうか。
   今の再臨運動と比較して、何が歴史の教訓になるのであろうか。

「これらのことが彼らに起きたのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とするためです」（Ｉコリント 10：11）

資料：拙著『**内村鑑三と再臨運動**―**救い・終末論・ユダヤ人観**―』新教出版社、2012 年

Ｉ．大正期再臨運動（1917～1919 年）はどのようにして起きたのか

1. 時代状況
   （1）第一次世界大戦（1914 年～1919 年６月）　バルフォア宣言・ロシア革命（1917 年 11 月）

   （2）スペイン風邪の大流行（1918 年３月～10 月）

   （3）欧米における再臨運動の展開

   （4）日本における社会的政治的危機
   ① 米価高騰による富山における米騒動が全国に波及（1918 年７月～）
   ② 炭鉱騒動が全国に波及（1918 年８月～）
   ③ スペイン風邪の流行（1918 年９月～、1919 年４月～）
   ④ 寺内内閣倒れて原敬内閣の結成（1918 年９月）

2. 再臨運動の先駆者である中田重治（1870～1939 年）

（1）留学時に再臨について学ぶ

（2）東洋宣教会の伝道活動の展開　四重の福音（新生・聖化・神癒・再臨）

（3）再臨に関する記事　『聖潔之友』（1901～）

再臨運動を共にした中田重治（左）、内村鑑三（中央）、木村清松（右）。1918 年春ごろ

3. 再臨運動の中心人物である内村鑑三（1861～1930 年）

（１）愛娘ルツ子の死去（1912 年）

（２）欧米における再臨運動に関する記事

（３）神学の閉塞状況

『聖書之研究』（1900～1930 年）

4. 預言に関する聖書研究に基づく説教運動として開始された　内村 57 歳　中田 48 歳

5. 超教派の運動として開始された

東洋宣教会・無教会・日本伝道隊・聖公会・日本基督教会・日本福音教会・メソジスト教会・大阪天満教会・プリマス・ブラズレンなど

II．大正期再臨運動はどのように展開したのか

1.　再臨運動の歴史的経緯

時期	年	月	再臨運動	再臨批判運動	歴史状況
準備期	1917 大正６	4	「再臨の待望」『聖潔之友』552		米国、ドイツに宣戦布告
		6	「主の再臨近し」同、558		
		7			**全国協同伝道大会**
		8	「主は近し」同、570		
		9	17 日に再臨予想　同、571		
		10	再臨予想外れたが近い　同、575		
		11	東洋宣教会ホーリネス教会宣言書　四重の福音 同、579 南の王と北の王間のハルマゲドンの戦い　同、582		**バルフォア宣言** ロシア十一月革命でソヴィエト政府樹立
		12	聖地回復の期待　再臨に備える白衣品切れ広告同、584 空中携挙は９月７日に預言同、585		**英軍エルサレム占領**
開始・高揚期	1918 大正７	1	新年聖会「主臨らん」：中田重治 神田ホーリネス会堂 「再臨への期待」同、587 **聖書の預言的研究演説会** 中田重治・木村清松・内村鑑三 東京基督教青年会館 内村：亡娘ルツの墓参り 「空中携挙」同、591		ウィルソン１４か条発表
		2	「聖潔と再臨」同、592 **聖書の預言的研究演説会** 内村・オルトマンス・中田 「再臨特集記事」同、593 **再臨信者の合同祈祷会** 東洋宣教会・日本伝道隊・聖公会・日本基督教会・日本福音教会・メソジスト教会・大阪天満教会・無教会 今井館聖書講堂 「再臨号」再臨図解　同、595	「基督再臨講演会を聴く」『六合雑誌』445： **原田長治**	

時期	年	月	再臨運動	再臨批判運動	歴史状況
開始・高揚期	1918 大正 7	3	聖書の預言的研究演説会 藤井武・内村 東京基督教青年会館 聖書の預言的研究演説会 木村・中田・内村 大阪天満教会 **信仰復興大説教** 木村・中田 **大阪再臨信者の祈祷親睦会** **日本基督教希望団**の結成発表 組合教会・自由メソジスト教会・聖公会 大阪天満教会・泰西学館 聖書の預言的研究演説会 中田・木村・内村 京都基督教青年会館 聖書の預言的研究演説会 青木庄蔵 神戸基督教青年会館	「基督再臨説批判」『六合雑誌』446：「基督再来の高唱」『新人』212： **内ヶ崎作三郎** 「基督再臨信者に対する見解」『基督教世界』1798～1800：**海老名弾正**	ソヴィエト政府、ドイツと講和条約（ブレスト・リトフスク条約） ドイツ軍、イギリス軍に対して大攻勢開始 **スペインかぜ米国で流行死者 50 万人**
		4	**東京再臨信者親睦会** 内村・中田 大山園 聖書の預言的研究演説会 内村・平出・中田 三崎町バプテスト教会 聖書の預言的研究演説会 K.E アウレル・小原十三司・坂田祐・内村 三崎町中央バプテスト教会 聖書の預言的研究演説会 内村・山崎亭治・石川鉄雄 三崎町バプテスト教会 木村清松は運動から退く	「基督再臨説の論議」『福音新報』1489；「基督再臨説の起源」『六合雑誌』447 **相原一郎介**；「基督再臨説の根拠について」『神学之研究』9-４：**杉浦貞二郎**；「基督再来論」『新人』213： **海老名弾正**；「内村の平和論を評す」『新人』213；「内村氏一派の再臨運動」『基督教世界』1802；「基督再臨説の論議」『福音新報』118；「基督の再臨」『神学評論』5-4 **S．Hウェンライト**	日本軍、ヴラジオストク上陸 スペイン風邪流行開始

時期	年	月	再臨運動	再臨批判運動	歴史状況
開始・高揚期	1918 大正 7	5	聖書の預言的研究演説会 好地由太郎・中田・内村 三崎町バプテスト教会 聖書の預言的研究演説会 内村・中田 三崎町バプテスト教会 再臨問題研究演説会 藤本寿作（聖公会）A.P ウィルクス・内村 神戸基督教青年会館 聖書の預言的研究演説会 中田 三崎町バプテスト教会 **信仰復興大演説会** 内村・平出・藤本 大阪天満教会 **柏木兄弟団**結成委員： 柴田鐫次・藤井・坂田 「一高の名投手=内村鑑三氏の令息」『東京朝日新聞』 聖書の預言的研究演説会 平出・中田・内村 日本基督教希望団主催 横浜基督教青年会館	「基督再臨論の迷妄」『新人』214：「現代基督教界の迷妄」「再臨運動者と福音派の人々へ」『六合雑誌』448：**白石喜之助** 「再臨」(小説)：**沖野岩三郎** 組合派とユニテリアンの反対	**スペイン風邪ヨーロッパで流行：**
対抗・充実期		6	**柏木兄弟団結成**：教友会・エマオ会・白雨会の合同 「ラザロの復活」内村 三崎町バプテスト教会 日本基督教平信徒革正会結成 青木庄蔵・平出 「基督再臨の聖書的根拠」 内村　札幌独立基督教会	基督再臨問題講演会 今井三郎（メソジスト） 杉浦・海老名 「基督再臨問題講演会」『基督教世界』1809 「基督の再臨」『福音新報』1199	スペイン風邪流行第二派 フランス、米国、アフリカ
		7	「基督再臨の歴史的証明」 「基督再臨の天然的証明」 内村　札幌独立基督教会 「再臨と聖書研究」 基督教徒箱根修養会	「往時の宗教的要求と吾等の宗教的要求」『新人』216：**帆足理一郎**	ドイツ軍大攻勢 英仏連合軍反撃開始 国内米価 2 倍に
		8	「基督再臨を強調しての日本における聖書教育」内村 外国人宣教師のための講演 軽井沢	「基督再臨に就いて」『上毛教界月報』237：**柏木義円** 「基督再来論の権威の所在」；「再臨思想の考察と批判」『新人』217：**今井三郎**	日本軍、シベリヤ出兵 **富山に米騒動が起こり全国に波及：京都・名古屋** **炭鉱騒動も頻発**

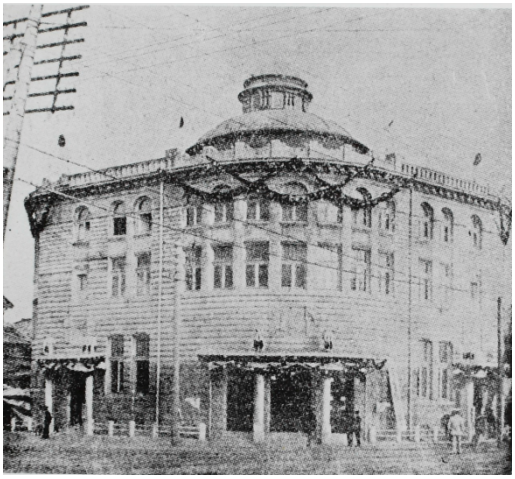
時期	年	月	再臨運動	再臨批判運動	歴史状況
対抗・充実期	1918 大正 7	9	柏木兄弟団署名式 聖書講演会 藤井・平出・内村 東京基督教青年会館 聖書講演会 坂田・内村 東京基督教青年会館	「基督再臨説を評す」『六合雑誌』38-9：クレー・マッコーレー	**寺内内閣倒れて原敬内閣** バルカン半島で連合軍大攻勢開始 ブルガリア降伏 **スペイン風邪日本に流行：1919 年までで犠牲者 25 万 7 千人　感染者 2116 万人 人口の 3 分の一** **ウルップ島沖地震沼津に**
		10	聖書講演会 塚本・内村 東京基督教青年会館 **基督再臨研究東京大会発起人会** 中田・平出・沢野鉄郎・坂田 宝亭 岡山聖書講演会 青木・本間俊平・中田・内村 岡山県会議事堂 岡山聖書講演会 矢内原・好本督・中田・内村 岡山聖書講演会 中田・内村 聖書講演会 柴田・内村 東京基督教青年会館	「ザイオニズム運動と新猶太意識の発現」『新人』219：今井三郎	オスマン帝国、休戦条約に調印 **スペインかぜ全世界に流行：感染者 6 億人（世界人口の約 3 割）死者 5000 万人**
		11	基督再臨研究東京大会 藤本・松岡帰之・内村 基督再臨研究東京大会 内村・藤井・コルテス 基督再臨研究東京大会 後藤粂吉・青木・平出・ワイドナー　宇津木惣八・中田信蔵・コルテス・内村 東京基督教青年会館 『基督教再臨問題講演集』刊行		キール軍港でドイツ水兵の反乱 オーストリア休戦条約 第一次世界大戦終結 戦闘員死者 900 万人 非戦闘員死者 1000 万人 25 **ニューヨーク再臨大会** 日本国内にインフルエンザ流行 ウルップ島沖地震が東京に津波あり

時期	年	月	再臨運動	再臨批判運動	歴史状況
対抗・沈静期	1918 大正 7	12	「国家的罪悪と神の審判」内村 東京基督教青年会館 「平和の到来」内村 クリスマス晩餐会 東京基督教青年会館		吉野作造、黎明会結成
	1919 大正 8	1	**基督教再臨研究大阪大会** コルテス・内村 **基督教再臨研究大阪大会** 石川鉄雄・藤井・藤本・ニューマク（ユダヤ人）・河辺貞吉・中田・森本慶三・黒崎幸吉・内村 **基督教再臨研究大阪大会** 内村　　中之島公会堂	「基督再来説と基督教」『神学評論』6-1：**富永徳磨**	**パリ講和会議**
		2	猶太人問題研究会 三崎町バプテスト教会 ユダヤ人ニュマク出席 「イエスの終末観」内村 東京基督教青年会館 27　再臨信者である B.Catherine Pife（米国改革派教会宣教師）Elizabeth R. Grillet（英国鉄道ミッション）と面会	「基督再臨問題講演集を読む」『六合雑誌』39-2：**三並良**	
		3		東京教役者懇談会 内村講演のための東京基督教青年会館使用に着いて反対意見：小崎弘道・平岩愃保	朝鮮で三・一独立運動
		4	「一高内村投手、三高に勝利」『万朝報』4/6 「パウロの復活論」内村 東京基督教青年会館	「内村氏の基督再臨論批判」『無尽灯』24-4：**井上右近**；「青年会館の紛擾」『時事新報』4/14	**スペイン風邪第３派：日本にも流行**
		5	基督教界革正会大演説会 東京基督教青年会館 「天国の市民と其栄光」内村 東京基督教青年会館	**東京基督教青年会館における内村の講演会謝絶決定** **会館を一方的に閉鎖** 『朝日新聞』5/30	中国北京で五・四運動

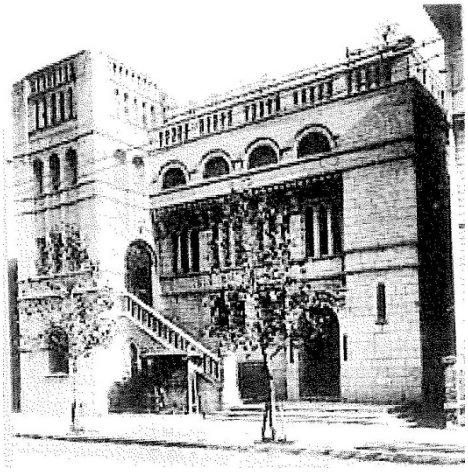
II．大正期再臨運動はどのように展開したのか

時期	年	月	再臨運動	再臨批判運動	歴史状況
衰退・転換期	1919 大正 8	6	「信仰の三角形」内村 大日本私立衛生会議室	「基督教界の暗流　教会主義と無教会主義」『万朝報』6/1	ヴェルサイユ条約調印 **第一次世界大戦終結**
		7	「健全なる宗教」内村 京都平信徒信仰革正会主催 京都基督教青年会館 内村祐之、東京帝大医学部合格	「猶太の再建と基督の再来」『大観』2-7：内村義堅；『基督再臨説を排す』富永徳磨刊行	
		8	内村宅で聖日集会	「基督再臨説を批評す」『六合雑誌』39-8：日高沈聲；「宗教界の現状及び将来」『新時代』3-8：帆足理一郎 「基督の再臨説騒ぎ」『中央仏教』3-8：小林正盛	
		9	「世界の現状と基督の再臨」 内村　宇都宮教友会主催	基督教同志会発会講演会 富永・久布白直勝・帆足・	オーストリア、サンジェルマン条約に調印

東京基督教青年会館



大日本私立衛生会館



三崎町バプテスト教会

2.　内村鑑三の終末論

「キリストの再臨とはキリスト御自身の再臨である、是は聖霊の臨在と称する事とは全然別の事である、又之と同時に死せる信者の復活があり、生ける信者の携挙があり(テサロニケ前書四章十七節)、天国の事実的建設が行はる々のであって、人類の自然的進化、又は社会の改良、又は政治家の運動に由て神の国は地上に現はる々のではない、余は今は此等の事を疑はずして信ずるを得て神に感謝する、即ち余は今は所謂 Pre-millennialists（先づ再臨ありて然る後に神の国の出現ありと信ずる者）の一人であって Post-millennialists の一人ではない」

『聖書之研究』二一一号（一九一八年二月十日）

（1）有形的再臨

（2）前千年王国論

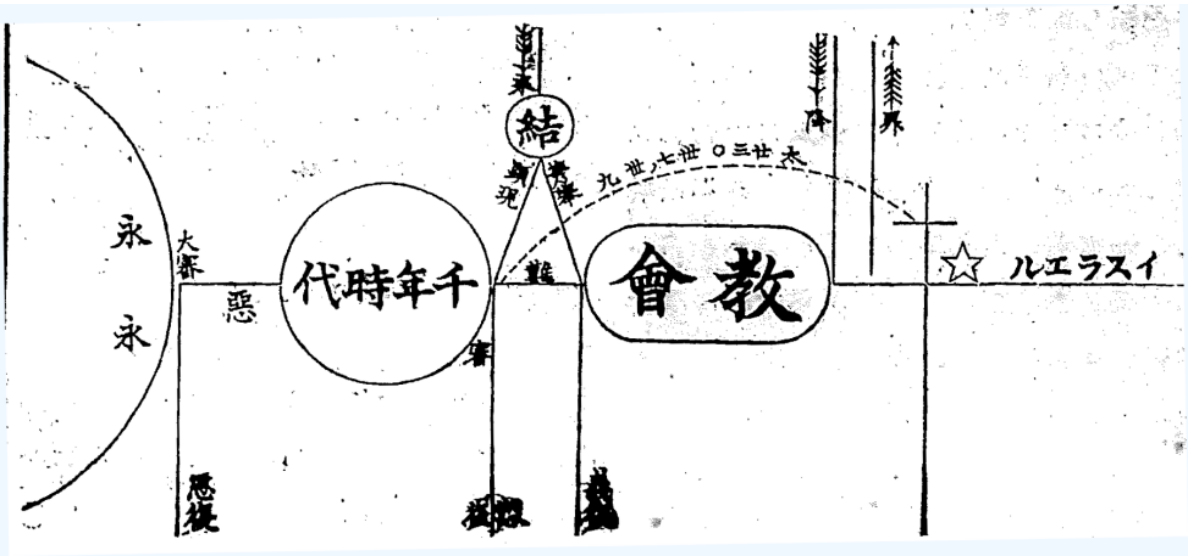
（3）聖書無謬論

「基督再臨問題は更に一の大問題を喚び起した。聖書問題即ち是れである、再臨反対論者は曰ふ『聖書が再臨を教ふる事は之を認むる、然しながら聖書は一言一句之を信ずべきではない、聖書の中に多くの謬がある・・・而して我等は聖霊に由て再臨の迷妄たるを知るのである』と」

「第一、聖書のみが我等の罪を現はすのである　第二、聖書は変わらない　第三、聖書は驚くべく調和したる書である　第四、聖書は深遠にして尽きざる書である　第五、余の一生涯の実験である」

「最も深く聖書を解したる人はすべて聖書無謬信者であった、聖書有謬説を以てして世界は動かない、其最も良き証拠は今の基督教界の状態である」

『聖書之研究』217 号（1918 年 8 月 10 日）



内村鑑三「再臨図解」

3.　再臨批判論

批評者	有形的再臨	再臨の根拠は聖書	聖書に誤謬はない	備　考
1 原田長治	× 内在のキリスト	×		
2 内ヶ崎作三郎	× 理想社会建設者	× 古代ユダヤ思想	× 時代的制約	
3 相原一郎介	× 内在のキリスト	× ユダヤ教終末観		
4 杉浦貞二郎	× 道徳的連鎖的再臨	× 当時の思想 イエスの言葉を誤解	× 聖書は絶対的ではない	
5 海老名弾正	× キリストとの霊的交わり	× 時代思想		
6 ウェンライト	○	○	×	後千年王国論
7 白石喜之助	× 非科学的迷信	× 堕落した時代状況 イエスの教えを誤解	× 聖書に誤想迷謬がある	
8 沖野岩三郎	×			
9 帆足理一郎	× 血迷い者	× 古代の妄想	× 古代の宗教的経験の不完全な記録	
10 柏木義円	○ 復活と同様に有形的	○ ユダヤ思想でもなく弟子の誤解でもない	○	
11 今井三郎	×	△ 聖書の文字通りの解釈が間違い		後千年王国論
12 マッコーレー	× 霊的再臨	× ２千年前の時代状況		
13 富永徳磨	× キリストの現在を否定し厭世的にする	× 時代思想	× 思想にも叙事にも矛盾がある	
14 三並良	× 霊的再臨	△ イエスの教えではなくて使徒等の信仰		平和になると再臨運動は弱まる
15 井上右近 仏教徒	×	× 空想にすぎない		
16 内村義堅	○ 虚妄ではない	○		
17 日高沈聲 仏教徒	× 幼稚な原始的信仰 霊的再臨			

4.　再臨運動が短期間で終息した背景

（1）第一次世界大戦が終結して平和な状態になった。

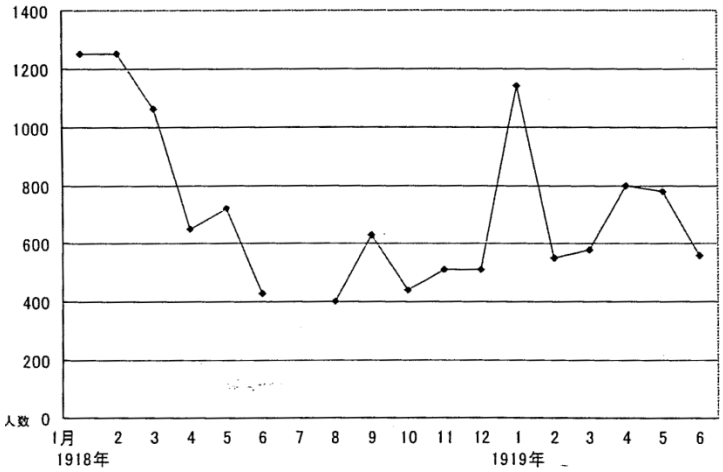
（2）国内に再臨運動に反対する運動が展開した。

（3）説教者が再臨を語らなくなった。

Ⅲ．大正期再臨運動と現在の再臨運動との比較

	大正期再臨運動	現在の再臨運動
危機的時代状況	○	○
有形的再臨・前千年王国論・聖書無謬論	○	○
運動が展開した地域	東京・横浜・大阪・神戸・京都・北海道など	東京・名古屋・大阪・沖縄・札幌
参加者数	800～1200 人	300～500 人
国際的連携・超教派的運動	△	○
再臨批判者による妨害	◎	×
再臨批判者に対する攻撃	○	×
メシアニック・ジューの参加	△	◎
イスラエルの救いへの祈り	×	◎
イスラエルに関する預言の成就	△	◎

表　再臨運動参加者数
（月別平均）



結論

1. 大正期再臨運動における内村鑑三の再臨論は、現在の再臨運動の再臨論と基本的に同じである。

2. 危機的時代状況も同じである。

3. イスラエルに関する聖書の預言は、現在においては大正期よりもさらに多く成就している。

4. 都市中心に、再臨批判者を攻撃せずに超教派の運動として聖書研究に基づき展開すれば、大きく広がる。

「これらのことをあかしする方がこう言われる。
『しかり。わたしはすぐに来る。』アーメン。主イエスよ、来てください。」

ヨハネ黙示録 22：20

「イスラエルのメシアニック・ジュー運動」

― 過去・現在・未来 ―

エレズ・ソレフ

通訳：中川健一

1. 新約時代

NT Times

（1）イエスの弟子たち ― ユダヤ教の一派と見なされ、ユダヤ社会内部の現象だった。

（2）諸国民に福音を伝えよという神のパウロへの召し。

（3）紀元２～４世紀頃 ― 諸国民の間に広がるメシアの共同体内で、一定の規模と指導力を保つ。

（4）紀元４世紀まで ― メシアニック・ジュー共同体の存在が認められる。

2. ユダヤ教とキリスト教の分離

Separation of Jewish and Christian Communities

（1）当初から、イエスの信者とユダヤ教の宗教的指導者の間には対立があった。

（2）２つの出来事が、ユダヤ教とキリスト教の分離を決定的にした。そして、ユダヤ人信者はメシアニック・ジューとして生きることが許されなくなり、その後長年にわたって迫害を受ける土壌ができあがった。

3. ユダヤ教の側の理由 ― 背景

On the Jewish Side - Background

(1) 紀元 70 年の神殿崩壊後、ユダヤ人は大きなジレンマを抱えていた。神殿はなく、いけにえをささげることもできない。どうすれば神のもとに行くことができるのか？

(2) 解決策 ― 「祈り」が「いけにえ」に置き換わった。

(3) 結果 ― 霊的指導権が祭司からラビに移った。パリサイ的ユダヤ教（ラビ的ユダヤ教）は、それまでのユダヤ教の流れを一掃した（時には力ずくで）。

(4) ラビ的ユダヤ教の主要な教えの一つ ― ラビの権威は、聖書よりも、いや神よりも大きい。

4. ユダヤ教の側の理由 ― バル・コクバの乱

On the Jewish Side - The Bar-Chokhba Rebellion

(1) 紀元 70 年以降、メシアニック・ジュー社会はイスラエルの一部として成長し続け、ラビ的ユダヤ教から大きな脅威として見られた。

(2) 紀元 132〜5 年 ― バル・コクバの乱

(3) サンヘドリン（ユダヤ議会）の指導者であったラビ・アキバが、１人の兵士をメシアと宣言し、メシアの称号である「バル・コクバ（星の子）」と名づけた（民 24：17）。

(4) ラビ・アキバとサンヘドリンは、すべてのユダヤ人に、メシアであるバル・コクバの旗の下に団結して、ローマ人を追い出し、ダビデ王国を再建しようと呼びかけた。

(5) メシアニック・ジューは、バル・コクバの旗の下で団結することを拒否し、バル・コクバは偽メシアであると主張した。

(6) バル・コクバの乱が失敗に終わった時、ローマ帝国によってエルサレムは完全に破壊され、ユダヤ人は方々に散らされた。しかし、メシアニック・ジューはヨルダン渓谷南部に逃げていたため助かった。

(7) 被害を受けなかったメシアニック・ジュー社会は、反乱に参加しなかったためにユダヤ人社会から拒絶され、憎まれた。

(8)「異端者の祝祷（benediction concerning heretics）」はこの時期にまとめられ、今でも使われている毎朝の祈り「18 の祝祷」の一部になっている。

(9)「異端者の祝祷」は、異端者を呪い、滅ぼしてくださいと神に求める祈りである。ここで使われている異端者という言葉は「ミニーム」で、イェシュアをメシアと信じるユダヤ人（メシアニック・ジュー）を指す。

(10) バル・コクバの乱以来、ユダヤ人社会はイェシュアを信じるユダヤ人に対して次第に極端な態度を取り始める。

(11) **ユダヤ人がイェシュアを主であると告白し、その信仰を捨てることを拒否する場合、そのユダヤ人は死んだものと見なされ、ユダヤ人社会から追放される。**

(12) ２世紀以降の教会史でもずっとこのような状態が続いており、今日でもその習慣が一部に残っている。

5. キリスト教の側の理由 ― 第一ニケア公会議

On the Christian Side - The first Nicene Council

(1) 324～5 年 ― コンスタンティヌス皇帝が、キリスト教信仰の定義を行うためにローマ帝国内の全司教を召集した。

(2) しかし、メシアニック・ジューの司教 17 名は除外された。

(3) 有名な「ニケア信条」のほかに、多くの「アナテマ」（破門の条件）を定めた。

(4) 第一ニケア公会議では、以下を実践する者は破門とされた。
＊日曜日ではなく土曜日に礼拝する。
＊８日目の割礼を行う。
＊イースターではなく過越しの祭りを祝う、等々。

(5) **結果 ― ニケア公会議以後のキリスト教では、メシアニック・ジュダイズムが成立する余地はなくなった。**

6. ニケア公会議が教会史に及ぼした影響

The result throughout most of Church History

（1）ユダヤ人は、イェシュアをメシアと信じればユダヤ人社会から追放された。

（2）キリスト教社会に受け入れられるには、名前や生活習慣を変え、ユダヤ教との関係を断ち切らなければならなかった。

7. 変化の始まり ― 宗教改革以降

Started to change - after the reformation

（1）教会史を通して、このような悲しい状況が続いた。

（2）宗教改革で変化が起こり始めた。

（3）人々が自分たちで聖書を読み始めたのである！

（4）そして、人々は神が今でもイスラエルのために計画を持っておられることを発見した。

（5）「まずユダヤ人に」 ― 宗教改革以降、ユダヤ人宣教を行う団体が数多く生まれた。

8. ヨーロッパのユダヤ人伝道

Evangelism to Jewish people throughout Europe

（1）19 世紀には、100 以上の宣教団体がユダヤ人伝道を行っていた。

（2）伝道活動はドイツ、イギリス、スイスというプロテスタント国家から始まり、東ヨーロッパや米国へと広がっていった。

（3）19 世紀にイェシュアを信じたユダヤ人の数は、およそ 25 万人と推測されている（Corn-Sherbok、2002）。

9. 20 世紀のユダヤ人伝道

Jewish Mission in the 20th Century

（1）個人的な証し ― スィスィー家　パート 1

10. ホロコーストの影響

The effect of the holocaust

（1）ホロコースト前 ― ヨーロッパにはかなりの規模のユダヤ人共同体があり、学者やメシアニック・ジューも数多くいた。

（2）第二次世界大戦後 ― メシアニック・ジューの中心地はユダヤ教と同じく米国に移ったが、イスラエルが精神的、霊的な中心となった。

（3）ここ 20 年間で、イスラエルのメシアニック・ジュー共同体が中心的役割を取り戻し始めている。

11. イスラエルのユダヤ人信者たち

Jewish believers of Messiah in Israel

（1）国連決議 181 号（1947 年 11 月 29 日）が出された後、イスラエルの建国が宣言され、アラブ諸国はイスラエル国家を滅ぼす準備に入った。

（2）オペレーション・グレイス ― 英国国教会の保護のもと、メシアニック・ジューはイギリスに避難する。

（3）イスラエル建国時 ― イスラエル全体で、メシアニック・ジューは 3 ～ 4 世帯しかいなかった。

(4) 1950〜70 年代 ― イスラエルにおける信者の共同体はほとんどが宣教師で、メシアニック・ジューはごく少数だった。
＊迫害を受ける少数派
＊さまざまな領域であからさまな差別に直面する。

(5) 1980 年代 ― メシアニック・ジューの最初の移民が米国からやってきた。米国で起きていた「ジーザス・ムーブメント」で救われたユダヤ人である。

(6) 1990 年代 ― ロシア系ユダヤ人移民が大量に押し寄せる。
＊信者として来たロシア系ユダヤ人の大半はイスラエルを去り、そのほとんどがカナダに渡った。
＊イスラエルにおけるメシアニック会衆は、ロシア系ユダヤ人が次々に信仰に入ったために急速な成長を遂げた。

12. 全国的なメシアニック団体の発展（1980〜90 年代）

Development of national-level Messianic bodies (80's-90's)

(1) UMJC（Union of Messianic Jewish Congregations）
＊教派ではない。裁定権はなく、国の認定も受けていない。
＊信仰告白

(2) イスラエル伝道委員会

(3) イスラエル聖書大学

13. イスラエルにおけるユダヤ人信者たち ― 2000 年以降

Jewish believers of Messiah in Israel - 2000 on

(1) メシアニック会衆の数が増える。

(2) 宣教師に対するビザの発行基準が厳しくなった ― イスラエルの多くの宣教団体や会衆が、現地のイスラエル人によって運営されるようになる。

（3）メシアニック・ジューの移民が、法律その他の手段により制限される。

（4）メシアニック・ジューの移民に市民権を与えず、国外に追放する。

（5）迫害が増加。

（6）メシアニック・ジュー指導者の世代交代が始まった。

14. イスラエルにおけるユダヤ人信者たち ― 個人的な証し

Jewish believers of Messiah in Israel - a personal perspective

（1）スィスィー家 ― パート 2

（2）ソレフ師の証し ― イスラエルにおける新世代のメシアニック・ジューの典型的な証し

15. 今日のイスラエルにおけるメシアの共同体 ― アラブ人信者たち

Present day Israeli Body of Messiah - Arabic believers

（1）イスラエルのユダヤ人信者と同じようにアラブ人のメシアの共同体も発展

（2）福音派のアラブ人信者と会衆が増加

（3）名ばかりの信者だったという人がほとんどで、イスラム教徒から回心した人は少数

16. イスラエルのメシアニック・ジュダイズムが抱える現在の課題

Current Challenges among Israeli Messianic-Judaism I～IV

（1） ２大問題 ― アイデンティティと権威

（2）アイデンティティの問題

＊メシアニック・ジューは、ユダヤ人社会でも、クリスチャン社会でも疎外感を覚えている。「自分はいったい何者なのか」という問い。

＊「教会の異邦人化」― ユダヤ人信者の反動

＊ユダヤ人としてのアイデンティティの実践 vs 権威

＊アラブ人信者の共同体や、移民、スーダン人との関係

（3）権威の問題

＊常にアイデンティティの問題との絡みがある。

＊良い麦と毒麦のたとえ ― 混乱の種をまこうとする敵の企て

＊**聖書の権威のみ** ― タルムードの権威を認める人もいる。問題は、タルムードがイェシュアを拒絶し、聖書の権威も認めないことである。

＊メシアのご性質 ― メシアの神性や人性に疑いをかける。

＊ユダヤ人の救い ― 二契約論や「隠されたメシア」の教え

＊異邦人に「律法の遵守」を求める。

＊TJC（Toward Jerusalem Council）II 運動 ― エキュメニズム（教会一致運動）

17. イスラエル聖書大学（ICB）

Israel College of the Bible (ICB)

18. イスラエル聖書大学の使命

God's Calling to ICB

（1）メシアニック・ジュー運動とアラブ人信者の共同体は、ここ 20 年間で急激な成長を遂げた。**そこでの最大の課題は、指導者の育成である。**

（2）イスラエル聖書大学の使命 ― **「メシアニック・ジュー運動の現在および将来の指導者を、イスラエルと全世界のために育成する」**

（3）プログラムの内容、卒業生、現在の教員、設備

19. イスラエル聖書大学の使命 ― 近況

God's Calling to ICB - current:

（1）クリエイティブな伝道活動 ― メディアセンター

(2) ダイナミックな指導者育成 ― 聖書大学と神学校

(3) 開拓伝道

(4) 地域への奉仕 ― カウンセリングセンター

(5)「ダイナミックシャローム」 ― メシアニック・ジューとアラブ人信者の一致協力

(6) イスラエル最大のメシアニック文献量を誇る図書館

20. 将来の展望 ― 祈りの課題

A look at the future - how can you pray for us?

(1) **メシアニック・ジュー運動の霊的成長** ― わき道にそれることなく神を追い求め、社会の地の塩、世の光となるように。

(2) イスラエル聖書大学が、神学的論争の中にあっても確固たる信仰の上に立ち続けることができるように。

(3) **イスラエル聖書大学の学生のために** ― 神の愛にあって成長し、奉仕が実を結ぶように。

(4) **イスラエル聖書大学の理事会と教員のために** ― 偽教師に対して毅然とした態度をとることができるように。

(5) 自分たちにゆだねられたものを良き管理者として管理・運営できるように。

賛　美

「輝け主の栄光」（リビングプレイズ 110）

愛の光　かがやき

暗闇を　照らしだす

わが主イエス　世の光

自由を与える　ちから

いのちの　みことば

輝け　主の栄光　地の上に

こころを　燃やしたまえ

あふれよ　主の恵み　あわれみ

この地を　生かしたまえ

第３回 再臨待望聖会
タイムスケジュール

プレ大会

沖縄・名古屋・札幌会場

10：00 ～	開場		
10：30 ～ 12：30	聖会Ⅰ	メッセージ１「基本に立ち返る」	中川健一
12：30 ～ 13：30	休憩		
13：30 ～ 15：30	聖会Ⅱ	メッセージ２「基本に立ち返る」	中川健一

本大会

大阪会場

9：30～	開場		
10：00 ～ 11：30	聖会Ⅰ	メッセージ１「基本に立ち返る」	中川健一
11：30 ～ 13：00	聖会Ⅱ	メッセージ２「イスラエルのメシアニック・ジュー運動 ― 過去・現在・未来 ―」	エレズ・ソレフ
13：00 ～ 14：00	休憩		
14：00 ～ 16：00	聖会Ⅲ	メッセージ３「イスラエルのメシアニック・ジュー運動 ― 過去・現在・未来 ―」	エレズ・ソレフ
		まとめ	中川健一

東京会場

9：30～	開場		
10：00 ～ 11：30	聖会Ⅰ	メッセージ１「基本に立ち返る」	中川健一
11：30 ～ 13：00	聖会Ⅱ	メッセージ２「内村鑑三と再臨運動」	黒川知文
13：00 ～ 14：00	休憩		
14：00 ～ 15：30	聖会Ⅲ	メッセージ３「イスラエルのメシアニック・ジュー運動 ― 過去・現在・未来 ―」	エレズ・ソレフ
15：30 ～ 17：00	聖会Ⅳ	メッセージ４「イスラエルのメシアニック・ジュー運動 ― 過去・現在・未来 ―」	エレズ・ソレフ
		まとめ	中川健一

2012 年 2 月、3 月開催